

受験番号	名 前
------	-----

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ぼくたちの寄宿舎に、今年になって転校してきたエルダッドは、ぼくがゆっくり水を飲もうとすると、じやまする。みんなといっしょにならんで、冷たい水道のじゃぐちに飛びついているときでも、①うるさい。

「イタマル、もう、いいだろ。水道の水を、全部一人で飲むつもりかい。他にも待つてる人がいるのが、見えな
いのか。」

とつづく。

水を飲む楽しみをおじゃんにしたくないから、がまんしてるけど、でなかったら、一発おみまいしてやるつもりだ。

運の悪いことに、そのエルダッドと同室になってしまった。同じ部屋で、ね起きすることになったのだ。

ねる時間になったので、ぼくは明かりを消した。エルダッドが起きて、明かりをつけた。ぼくは、起き上がった明かりを消し、スイッチのそばから動かなかった。エルダッドが起きて、ぼくをおしのけて明かりをつけた。ぼくはおし返して、明かりを消し、その後はもう、明かりなんかそっちのけで、なぐり合いの大げんかになった。

②暗くしたり、明るくしたりしながら。同室のダニエルは、ぐちぐち文句を言い続け、やっぱり同室のミッキーは、だまっていた。

ミッキーも、今年になって寄宿学校にやって来た子で、ぼく、ダニエル、エルダッドといっしょの部屋になった。四番目のルームメイトだ。でも、だれもミッキーにかまわない。小がらでやせた、無口な子だ。いつもぼんやり考えこんでいて、声をかけられても聞いてなかったりする。詩を書くが、勉強は③苦手だ。

ある日、ふと、ぼくは、ミッキーの水を飲む様子が気になった。

ぼくはいつも、③みんなが水を飲み終えて行ってしまってから、ゆっくりじゃぐちに近づくようにしていた。みんなといっしょのときは、サンダルを直しているふりをしたり、何か他のことをしているふりをしたりして、一人きりで水が飲めるまで待つ。 (ウーリー||オルレブ 「のどがかわいた」より)

問一 ①「うるさい」とありますが、だれが何をしているのですか。文章中の言葉を使って答えなさい。

問二 「ぼく」が好きなのは何をするのですか。解答らんに合うような形で文章中から四字で書き抜きなさい。

問三 「ぼく」は「エルダッド」のことをどう思っていますか。次から選び、記号に○をつけなさい。

- ア 元気がよくて明るいやつ。 イ 自分に意地悪をするいやなやつ。
ウ 弱い人を助けるやさしいやつ。 エ 無口でいつもぼんやりしているやつ。

問四 ②「暗くしたり、明るくしたりしながら」とありますが、これはどんな様子を表していますか。「けんか」という言葉を使って答えなさい。

問五 ③「苦手」の反対の意味の言葉を漢字で答えなさい。

問六 ④「みんなが水を飲み終えて行ってしまっ

てから、ゆっくりじゃぐちに近づくようにしていた」とありますが、「ぼく」がそうしていたのはなぜですか。

受験番号	名前
------	----

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

みなさんはお風呂につかったとき、からだが軽くなったように感じたことがあるでしょう。①それは水のなかにつかっているものは、どんなものにも浮力がはたらくからです。海中のウミガメは、浮力のおかげで重さが陸上にいるときよりずっと軽くなります。でも、もともとウミガメはとても重い動物です。浮力のはたらかない陸ではからだが重くてなりません。海のなかでは便利なひれ足も、陸上で歩くには②不便で、活動するには不自由です。海から上がってたまごをうむとなると、外敵から自分やたまごを守る方法もなければ、すばやくにげることもできません。

産卵をひかえたメスは、日中は海中を泳いでいたり、岩場からだをつけて休んだりしていますが、夜になると用心深く安全をたしかめながら、砂浜に上陸してきます。産卵にとりかかると、

③アカウミガメだと、左右のうしろ足をかわりばんこにシャベルのように使って、直径二十cm、深さ六十cmくらいの穴をほり、そのなかにたまごをうみます。うみおわると、今度は前足で砂をかけたり、うしろ足でふみかためたりしながら、穴をうめていき、すっかりうめもどせたら、海にもどっていきます。

アカウミガメが一回に産卵するたまごの数は一一〇個ほど。一頭のメスは十二日から十五日ごとに上陸し、産卵します。多いウミガメで夏の産卵期に六回ぐらいたまごをうむようです。

(④)、ウミガメは危険をおかしてまでどうして陸にたまごをうむのでしょうか。

ウミガメは、陸上で生活できるように進化してきた、は虫類のなかまです。は虫類はかわいた場所でも、からだのなかの水分が外へ出ていかないように、じょうぶなウロコのような「ひふ」でからだをおおっています。たまごも、水中にうむ魚類やカエル、イモリといった両生類のものと同じ、鳥類のたまごのように「から」につまれています。たまごの中身がかわかないようにするためです。⑤海でくらすようになってからも、陸での生活のなごりがのこっています。そのため、魚類は一生を水のなかですごすために、水にとけこんだ酸素をエラからとりこんで呼吸できますが、ウミガメにはできません。たまごも同じです。ウミガメのたまごは、からを通して息をしており、水中だと息がでずに死んでしまうのです。

このようなわけで、⑥ウミガメは一生の大部分を海でくらすようになった今でも、たまごだけは陸にうみに来るのです。(香原知志 「ウミガメの旅」より)

問一 ①「それ」とは、どんなことを指していますか。解答らんに合うように答えなさい。

(理由

問二 ②「不便」とありますが、「不」をつけて熟語にならないものを次から一つ選び、記号に○をつけなさい。

ア 運 イ 信 ウ 熟 エ 足

問三 ③「アカウミガメ」についての説明として最も適切なものを次から一つ選び、記号に○をつけなさい。

ア 穴のなかに、一回あたり一一〇個ぐらいたまごをうむ。

イ 前足とうしろ足を使って、たまごをうむ穴をほる。

ウ たまごをうんだ穴には何も手を付けずに、海に帰る。

エ 夏の間、十二回から十五回、たまごをうむ。

問四 (④)に入る言葉を次から一つ選び、記号に○をつけなさい。

ア すると イ ところが ウ ただし エ では

※問題はその三に続きます。

